

TRC MARCpedia

タイトル・ヨミについて

Vol.04 までで、TRC MARC の中身の細かい見方や更新情報、主題に関する項目について解説してきました。いかがでしたか？

どこをどう見ればよいか、ポイントがわかりました。次は実際の目録の作成方法を知りたいです！

それでは今回は、検索の要でもある、図書の**タイトル**や**ヨミ**に関する部分にフォーカスしますね。

タイトルって、そのまま転記するだけだと思っていました。もっと色々なルールがあるということですか？

そうなのです！「タイトル」や「ヨミ」の記録の仕方や、「続きもの」をどう扱うか？迷うパターンが出た場合はどうするか？といった、細かいけれどもとっても重要なルールがたくさんあるのです。早速見ていきましょう！

MARC で探そう！ Q&A

その5 大型絵本を探す

このコーナーでは毎月 MARC や TOOLi を使った便利な検索方法をご紹介します！

Q. 読み聞かせ用にビッグサイズの絵本を探しています。

A. 大きさやジャンルコードで検索できます！

MARC に必ず入力してある基本項目、**大きさ**。外形の高さをセンチメートルの単位で端数を切り上げて記録します。TOOLi では、大きさからも図書を探すことができます。

例えば、50cm 以上の絵本を探したい時は、絵本の分類記号「E」を使用し下記のように設定すれば OK。

→「**大きさ**」欄で「**50cm**～」と指定し、「**分類記号**」「**10 版**」の欄に「**E**」と入力

また、1 辺が 35cm 以上の絵本には一律「大型絵本」のジャンルコードを付与していますので、こちらを利用した検索も可能です。

→「**ジャンル**」欄で「**児童書・絵本＞絵本＞大型絵本**」を選択

いずれの方法も、シリーズ名に「大型絵本」「ビッグブック」などの言葉が入っていない絵本についても検索できる点が特長です。

コード化情報「利用対象」と掛け合わせれば、年齢などで読者対象を絞ることも可能です。

大型絵本を探す際などに、これらの方法をぜひお試しください。



電子コンテンツの MARC のはなし Vol.5

今回は電子コンテンツ MARC における「大きさ」や「索引」の入力基準についてです。

紙の本の場合、本の大きさは必須の項目です。しかし電子コンテンツの大きさは測ることができないので、入力していません。データ部員が「校正作業に必須なアイテム」として思い浮かべる赤ペンとメジャーですが、こと電子コンテンツの MARC 作成に関してはメジャーと無縁の世界なのです。

また、TRC MARC では索引がついた本には索引フラグを立てていますが、これもリフロー型の場合はちょっと特別な基準で入力しています。電子コンテンツはコンテンツ内でリンクを貼ることができます（リンクをクリックすると、該当のページに飛べる仕組みです）。文字の大きさを変更すると本文レイアウトが変わってしまうリフロー型では、通常索引にある「〇〇ページ」という表記だけでは意味をなさないので、該当ページにリンクが貼られた索引のみを採用しています。

・私の好きなタグ・

タグとは？

→MARC 中の項目が何を意味しているかを示す英数字。毎月 1 タグ、データ部員が自身の好きなタグについて熱く語ります！

121H =装丁コード

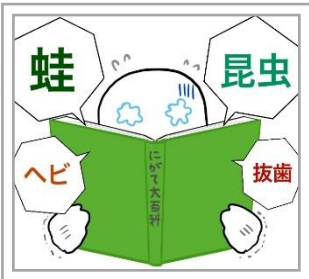
図書の装丁・つくりに応じて入力するタグ。このタグが気になる方、きっと多いのではないのでしょうか。豪華な化粧箱入りだったり、和綴じ本や上質な布装など、こだわりを感じる本は手にするだけでそわそわしてしまいます。また、ブッカーのかけ方の判断基準にもなります。変型本は、絵本に多く見られるような図書の形が正方形・長方形以外のものに入力しますが、利用対象を一般に絞って検索してみても変わった本が見つかるかもしれません。（典拠 Y.T）



より詳細に規則を掲載する「TRC MARC マニュアル」は TOOLi のお知らせページにあります。そちらもぜひご活用ください！

データ部より

～データ部あるある～
苦手なジャンルの図書も
臆せず目録作成（泣）



「編集後記」

今号は目録作成の基本となるタイトルやヨミについての解説でした。掲載した以外にも様々なパターンやルールがあるので、TRC MARC マニュアルも併せてぜひご覧ください。（S）

タイトル・ヨミについて

(※情報は全て架空のものであり、一部省略している項目もあります。)



TRC MARC は、正確で整合性のとれたデータになるよう、日本目録規則（NCR）に則り項目ごとに作成ルールを細かく設けているよ。タイトルに関する部分は特に大切。さまざまなパターンが出現する図書の表記に対応できるよう、なぜそのようなルールにしているのかも併せて解説します！

◆タイトルの採用方法◆

図書本体の表紙をめくったところにある「**標題紙**」、本体の最後にある（ことが多い）「**奥付**」、図書館で書架から探す際ポイントとなる「**背**」、そして「**表紙**」。この4カ所をあわせて4情報源と呼びます。タイトルをはじめ、目録に必要な情報はここから優先順位に従って採用します。



4 情報源の優先順位

4 情報源の中では「標題紙」を第1の情報源としています。2番手には図書本体の「奥付」が続き、狭い範囲に重要な情報を詰めた「背」が3番手、目に留まりやすくデザイン性が高くなりがちな「表紙」は4番手です。近年ではカヴァーごとブックレーを掛けて納品することが多いため、TRC ではカヴァーも情報源にしています。

もし情報源によってタイトルの表記が違った場合はどうするのですか？



«標題紙・表紙「**TRC MARC のひみつ**」**VS.** 奥付・背「**TRC MARC の秘密**」»

もしこのように2対2などの同数で表記が割れている場合は、最も優先順位の高い標題紙を含む方の表記を採用します。標題紙 VS. 奥付・背・表紙の場合は、残念ながら標題紙は不採用。数が同じなら優先度順、違うのであれば多数決で決まります。

なるほど！でも「TRC MARC の秘密」では検索できないのですね…。



本タイトルに採用しなかった方のタイトルは、**注記**に入力しています。MARC 上にどちらの情報も持たせ、注記にもヨミを付与することで、どちらのタイトルでも検索できるようにしています。タイトル中にアルファベットや数字を含む場合は、そちらでも単語検索に対応できるようヨミを記録しています。

「ひみつ」「秘密」どちらで検索してもヒット！

「/」分かち書き=カナヨミには単語ごとに区切りを入れています。

本タイトル	251A01	T R C MARC のひみつ
	341A01	奥付・背のタイトル：T R C MARC の秘密
タイトル注記	541A01	ティーアールシー／マーク／ノ／ヒミツ
	541F01	T R C ／M A R C ／ノ／ヒミツ

◆カナヨミのルール◆

タイトルにはカタカナでヨミを付与します。「暮らし」「暮し」「くらし」のように、図書によって表記が違う言葉をまとめて探したい場合や、「大人の週末」？それとも「おとなの週末」？と漢字の表記がわからない場合は、カナヨミで検索すると便利です。また誰がデータ作成に携わっても整合性のとれたデータとなるように、下記のように「統一」のルールを定めています。

日本目録規則（NCR）による
助詞のカタカナ表記のルール
「ハ」「ヘ」「ヲ」および「チ」「ツ」
↓
「ワ」「エ」「オ」「ジ」「ズ」と表記
(発音のとおり)

アルファベットには
「統一読み」を
↓
A / J / K
↓
エー／ジェー／ケー

複数の読み方がある漢字にも
「統一読み」を
↓
日本 → ニホン
私 → ワタクシ
明日 → アス

統一読みと異なるルビが図書にある場合は、図書にある通りの読みと統一読みを両方入れます。タイトルに漢字本来の読み方ではない特殊なルビが振られている場合は、その漢字の直後に（ ）に入れてルビを記録します（※）。カナ読みには、ルビの通りの読み方と、漢字の自然な読み方を両方入れます。



※2021年12月までの適用ルールです。

日本目録規則 2018 年版での変更点をふまえ、
TRC MARC も 2022 年よりルールを改定予定です。
今後 TRC MARCpedia にて詳細を解説していきますので、そちらもぜひご確認ください。



本タイトル	251A01	豚（ぶーすけ）は私のともだち
	551A01	ブースケ／ワ／ワタシ／ノ／トモダチ
	551G01	ブタ／ワ／ワタクシ／ノ／トモダチ
	551B01	豚は私のともだち

検索のために、「豚は私のともだち」=（ ）を抜いた形のタイトルも入力しています。

◆全集？シリーズ？TRCでの考え方◆

出版物のなかには、共通したタイトルを付けて複数冊刊行されるものがあります。同じようなつくりでも、「**全集**」とするか「**シリーズ**」とするかで MARC の中身も大きく異なります。図書のつくり（4 情報源での表示のされ方）を見て、また図書館での利用のされ方も考慮して、総合的に判断しています。

«全集»

個人の著作集、続きものの物語、一つのテーマについて体系的に編纂されているものなど、各巻ごとの分類であちこちの書架に散らばるより、まとめて一箇所に配架される方が利用しやすいと考えられるものは全集として扱います。

* 巻次や巻タイトルについては Vol.03 をご参照ください。



«シリーズ»

ひとくくりの共通する名前が付いていても、1 冊で独立していると考えられるものは、全集ならば巻ごとの固有タイトル（=巻タイトル）となるものを「本タイトル」とし、共通する名前を「シリーズ名」としています。

* 例「ちくま文庫」「岩波ジュニア新書」など



「続〇〇」という図書は、「続」も含めてタイトルにしないのですか？



単行本の続編が刊行された場合、「続〇〇」とタイトルがつながって表示されていても、MARC では「続」を切り離して巻次として記録。1 巻、2 巻…と続く全集と同じように、続=2 として扱います。また TRC MARCpedia Vol.03 で解説したように、「続」が刊行されたものは 1 巻目となる図書に「[正]」（=1）の補記メンテナンスを施します。

1 巻目の
単行本

本タイトル	251A01	目録を学ぼう！
巻次	251D01	[正]
巻冊記号	690D01	1

続巻

本タイトル	251A01	目録を学ぼう！
巻次	251D01	続
巻冊記号	690D01	2